

2019年8月9日
日鉄物産システム建築株式会社
(旧 株式会社住金システム建築)
代表取締役 生井 敏夫

規格型システム建築「SUMISYS NEO」初採用案件の着工

(商品) 2018年10月に発表の「(仮称)規格型トレオ」は、本年5月に規格型システム建築「SUMISYS NEO」と商品名称を決定した。

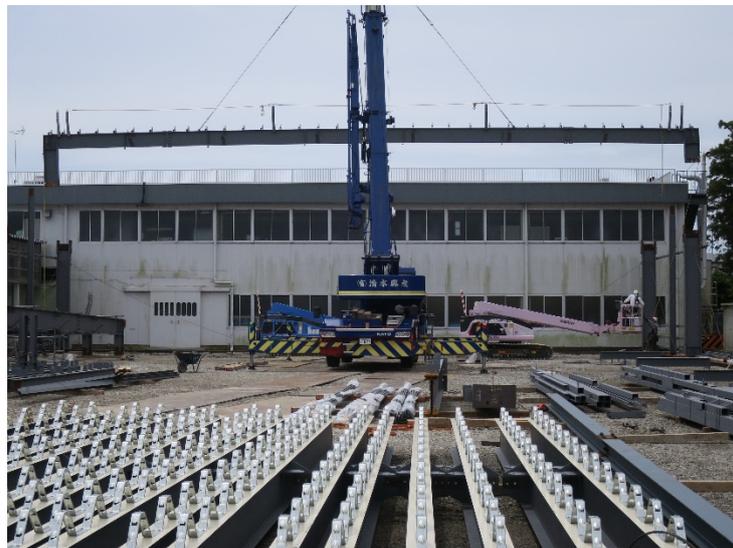
規格型システム建築「SUMISYS NEO」は、従来の自由設計型システム建築「SUMISYS TREO」に規格性を持たせることで、設計、生産および現場の省力化を計り、自由度とコストメリットの両立を目指す。

規格型システム建築「SUMISYS NEO」の開発は、Phase I からPhase III までの3段階により、適応範囲の拡大を計る。今回、Phase I となる「SUMISYS NEO I」の開発では、適用範囲を平屋建て／ラーメンブレース形式とする。

(採用) 規格型システム建築「SUMISYS NEO I」の初採用案件であるミクロン電気(株)静岡工場(静岡県掛川市)の建築工事が7月より着工、建築工事は順調に進捗している。

(特徴) 初採用案件では、「SUMISYS NEO I」の以下の特徴により、自由設計型システム建築「SUMISYS TREO」と比べ10%以上のコストダウン効果を目指す。

- ① 屋根および母屋では、新形状の箆合式屋根折板を標準化。母屋となる軽量H形鋼にはタイトフレームを工場先付けとし、現場での安全性・品質の確保・工程の圧縮を追求した。
- ② 外装および胴縁では、SD角波専用の新しいリップ付C形鋼を採用する。胴縁の配置と納まりが単純化され、胴縁の鋼材重量の大幅な削減が可能となる。
- ③ コーナーブロックは、主架鋼の柱梁接合部をブロック化。最適な設計により柱材および梁材の構造断面のサイズダウンを計り、主架鋼の鋼材重量の削減が可能となる。



規格型システム建築「SUMISYS NEO I」の鉄骨工事状況

<以上>